

研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-385
研究課題名 抗菌薬の使用状況と耐性に関するグローバル時点有病率調査 (GLOBAL-PPS)
研究期間 西暦 2014 年 9 月（倫理委員会承認後）～ 2017 年 12 月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（診療録内の記録、データ ）
上記材料の採取期間 西暦 2014 年 10 月～ 2015 年 4 月
意義、目的 薬剤耐性菌の増加が世界的な問題となっている。抗菌薬をむやみに使用せず、必要な場面で適切に使用することで薬剤耐性菌の増加を防ぐことができると考えられている。しかし世界各国の病院で抗菌薬がどのように用いられているかはよくわかつていない。そこで抗菌薬の使われ方について、日本国内のみならず世界各国で横断的に現状調査を行い、抗菌薬適正使用に向けての基礎情報を得ることがこの研究の目的である。アントワープ大学（ベルギー）が主研究機関となったこの国際研究への参加が広く呼びかけられており、参加医療機関のひとつとして東北大学病院が本研究に参加する。この研究に参加することで、抗菌薬適正使用、さらには薬剤耐性菌抑制のために必要な基礎情報が得られると期待される。
方法 東北大学病院に入院中で、病棟毎に調査日として定めたある 1 日に抗菌薬が処方されている患者を対象として下記の調査を行う。 2014 年 10 月に試行調査（西 16 階病棟）、2015 年 2 ～ 4 月に本調査（全病棟）を予定している。 【調査対象】 ・対象病棟で調査日の午前 8 時時点での抗菌薬を投与されているすべての患者。薬剤部で作成された抗菌薬使用患者リストを用いて対象者を抽出する。 【調査項目】 ・対象者について、診療記録から以下の情報を収集する。 一年齢、性別、抗菌薬名、投与量・回数・経路、診断名、適応症の種類、投与理由の記載の有無、ガイドラインの順守度、治療の種類（経験的/標的的）、バイオマーカーに基づく治療か、微生物検査データに基づく選択の有無、各種耐性菌に対する標的療法か ・「ガイドラインの順守度」は日本感染症学会・日本化学療法学会が発行した「JAID/JSC 感染症治療ガイド」を用いて判定する。 【データ収集と管理】 ・病院電子カルテシステムを用いて上記の情報収集を行う。 ・電子カルテの普及状況や記載状況によっては、病棟でのカルテ記載確認や医師・看護師からの情報収集を行う可能性がある。

・データは本研究（GLOBAL-PPS）のために開発されたウェブツール（http://app.globalpps.uantwerpen.be/globalpps_webpps/）に個人が特定できない形で入力され、データベースはアントワープ大学（ベルギー）のチームによって管理される。

【データ解析の方法】

- ・データ解析は他の医療機関から提出されたデータと合わせ、アントワープ大学（ベルギー）のコーディネーションセンターで行われる。
- ・国内の参加機関と協力して日本国内分のデータ解析を行う際には GLOBAL-PPS 開発グループからデータの提供を受けて行う。

問い合わせ・苦情等の窓口

東北大学大学院医学系研究科 感染制御・検査診断学 賀来満夫

東北大学病院 総合感染症科 具芳明

〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1

TEL 022-717-7373